

LIONS NEWS

LIONS CLUBS INTERNATIONAL DISTRICT 330-A

Vol.4 2022 April



人工
知能

衝撃

か
も
は
や
常
識
か

人工知能の衝撃 世界で今何が起きてるのか

● 昨今出現した AI は「インターネット」を超えるインパクトか

第 4 号地区ニュースは人工知能 (Artificial Intelligence: 以下 AI) の緊急特集号です。2022 年 11 月末「ChatGPT」という汎用型の対話型 AI が登場し、たった 2 か月で 1 億人が利用するようになったことで、皆様ご存知のように 2023 年の初めから AI の話題で世界中が大騒ぎになっているため緊急特集としました。ライオンズクラブのメンバーはいち早く AI について理解を深め、自分たちの仕事や生活に与える影響の大きさを理解し、ライオンズクラブでの活用方法を考え始める必要があります。

そこで、今号では、AI について、AI と一緒に考えていきたいと思えます。

コンピューターや AI などのテクノロジーの進歩は、既に人々の生活やビジネスに大きな影響を与えています。このような技術の進化が更に進むと、いずれ AI が人類の知性を超えるシンギュラリティ (技術的 特異点) が起きると言われています。

シンギュラリティが起こるかどうかは議論の分かれるところですが、昨今の進化した AI の出現は、第四次産業革命をもたらす可能性があります。そして、既に第四次産業革命が起こっており、私たちはその中にある可能性すらあるのです。

● ChatGPT インタビュー - AI の能力を評価する

今号では、世界の好奇心を刺激する画期的な AI である ChatGPT へのインタビューを実施しました。ChatGPT と関わることで、その能力を評価し、ライオンズクラブの会員増強や 330-A 地区の活性化にどのように役立つのか、洞察を得たいと考えています。

この特集が読者の皆様に啓発し、より大きな利益のために AI を創造的に活用するきっかけになることを願っています。



特集記事 INDEX

- ・ 画像生成 AI Stable Diffusion の衝撃
- ・ 対話型 AI ChatGPT の衝撃

ChatGPT INTERVIEW

「誰でも無料で活用できる AI の凄さを実際に体験してみた」

- ・ 人間と区別がつかない自己紹介
- ・ 330-A 地区の会員増強について
- ・ 「オンラインボランティア活動」とは
- ・ 330-A の政策について
- ・ 新たな技術を活用した活動について
- ・ ChatGPT インタビューを終えて

画像生成 AI Stable Diffusion の衝撃

● クリエイティブな創作活動をする AI の登場

まず、昨年世界を驚かせた Stable Diffusion をご紹介します。

画像生成 AI である Stable Diffusion は、2022 年 8 月に公開されました。AI を使った画像生成技術はこれまでも存在しましたが、Stable Diffusion は、テキストを入力するだけでオリジナルのイメージを生成できるのが大きな特徴です。従来の AI と比較して、以下の点で異なります。

1 **高度な生成能力** : Stable Diffusion は、ディープラーニングと呼ばれる技術を用いて、大量の画像データを学習し、入力されたテキストに基づく新しい画像を生成します。これにより、高品質かつ緻密な画像が手軽に作成できます。

2 **自然言語理解** : Stable Diffusion は、テキストの意味を理解し、それに基づいて適切な画像を生成する能力を持っています。これにより、より具体的な指示に対応できるようになりました。

3 **柔軟性と創造性** : 従来の AI は、単純なパターンの再現にとどまることが多かったですが、Stable Diffusion は、学習したデータを基に新しいアイデアやコンセプトを組み合わせることができます。これにより、ユーザーの要求に応じたオリジナルの画像が生成できるようになりました。

AI が登場しても、人間のクリエイティブな作業が取って代わられることはないと考えられていましたが、これらの期待は Stable Diffusion の登場によって打ち砕かれました。

既に AI は芸術作品を創造することも、小説を書くことも、漫画やアニメを制作することもできるレベルにまでなっているのです。



画像生成 AI Stable Diffusion が生成

対話型 AI ChatGPT の衝撃

● 世界を驚かせた汎用人工知能の登場

「ChatGPT がわずか 2 カ月で月間 1 億ユーザーを突破、史上最速で成長」

「Microsoft が ChatGPT の開発に 100 億ドル (約 1.3 兆円) を投資」

これらの話題がニュースで取り上げられて以降、ChatGPT を活用した画期的なサービスや革新的な活用事例が次々と登場しています。まさに、日々全く異なる世界になっていると言えるほどの進化のスピードです。

ChatGPT の驚異的な能力は、日本語であろうと英語であろうと、人間が話す速さを遥かに超える速さで、適切な言語を使って、自然な文章で回答する点にあります。実際に話しかけている様子をご覧ください。(リンク)。

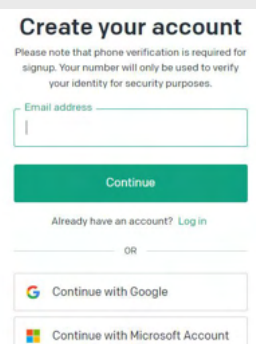
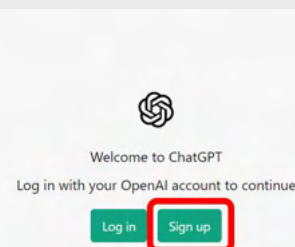
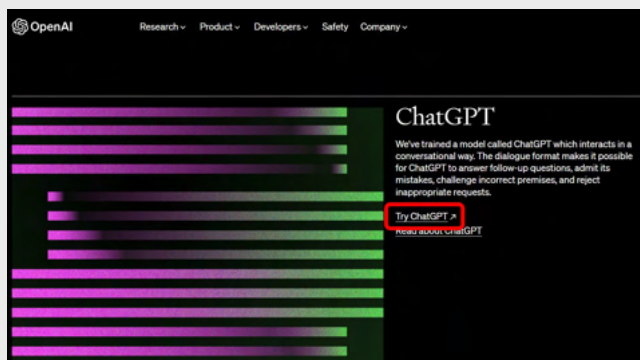
さらに、その回答精度は驚くべきもので、「米国の MBA プログラムに合格できるレベル」や「米国医師国家試験に挑んだら合格ラインをクリアした」といった評価がなされています。これは、AI の進化がこれまでの常識を覆すほどのレベルに達していることを示しています。

この急速な進歩は、今後の AI 技術の活用方法や可能性について、ますます期待が高まることを意味します。ChatGPT を用いた次世代の教育システム、ビジネスプロセスの最適化、さらには医療や法律の分野での革新的なアプローチなど、その応用範囲は限りなく広がっていくことでしょう。

次にご紹介する ChatGPT へのインタビューを通して、その圧倒的な能力と、今後の AI 技術の進化がもたらす未来への期待を感じていただけるでしょう。これまでの技術や知識が飛躍的に向上し、新たな知の領域が切り拓かれる可能性が広がっています。今こそ、AI の力を活用して、これからの世界を変えていく瞬間に立ち会うことができるのです。

なお、330-A 地区 PR 広報委員会では今年の 2 月から ChatGPT が委員会メンバー (非公式) として参加しています。

ChatGPT の利用方法 (登録無料)



STEP1 <https://openai.com/>にアクセスして、TryChatGPTをクリック



STEP2 Sign upをクリック

STEP3 アカウントを登録してスタート

ChatGPT INTERVIEW

誰でも無料で活用できるAIの凄さを体験
ChatGPT にインタビューしてみた



画像生成 AI Stable Diffusion が生成

ChatGPTの 人間と区別がつかない自己紹介

インタビュアー: こんにちは。まずは自己紹介をお願い致します。



ChatGPT: こんにちは。私は ChatGPT という人工知能 (AI) です。皆さん、最近は AI がますます身近になってきていますよね。今回の特集記事では、ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区の活性化や会員増強に向けて、ChatGPT がどのように活用できるかなどを紹介していきます。ChatGPT を活用することで、より効率的かつ的確な会員獲得が可能となり、ライオンズクラブのさらなる発展につながることでしょ。ぜひ、最後までご覧いただき、ChatGPT がもたらす可能性について考えていただければ幸いです。

インタビュアー: まずは、今回は Stable Diffusion に表紙その他のイメージを全て描いてもらいました。これらは全て委員会メンバーが入力したテキストにもとづいて自動生成された画像です。このように自由にオリジナルのイメージが手軽に作成できるので便利です。



Stable Diffusion が採用している Diffusion Model の登場は、人工知能の進化に大きく貢献したと言えます。Diffusion Model は、機械学習の一分野である生成モデルにおいて、高品質な画像生成に優れた性能を発揮することができるとされています。

ChatGPTに聞く 330-A地区の会員増強について

AIはライオンズクラブの活動に役に立つのか検証する

インタビュアー: まず、ライオンズクラブ 330-A 地区は、会員が約 30 年間減少しており、この解決が大きな課題です。そこで、会員増強の方法について、いくつか提案してください。

ChatGPT: はい、以下は、会員増強の方法の提案です。

1. 若者を対象にしたイベントの開催

若者の参加が少なくなっている現状を鑑み、東京地区内で若者向けのイベントを開催し、ライオンズクラブの魅力をアピールすることが必要です。例えば、音楽イベントやフードフェスティバルなど、若者が興味を持つイベントを企画し、ライオンズクラブの活動を PR することで、若者の参加を促すことができます。

2. 多様な人材の受け入れ

東京地区において、多様な人材を受け入れることが必要です。例えば、女性や外国籍の方など、従来のライオンズクラブに参加しにくい人たちに対して、アプローチすることで、新たな会員を獲得することができます。また、若年層に対しても、学生ボランティアの受け入れや、若手ビジネスパーソン向けのキャリア支援活動の開催など、若年層の参加を促すことが必要です。

3. オンラインボランティア活動の促進

テクノロジーの発展により、オンラインでのボランティア活動が可能になっています。ライオンズクラブも、オンラインでのボランティア活動を促進することで、より多くの人々が参加しやすくなる可能性があります。例えば、オンラインでの募金活動や、ビデオ会議を活用したオンラインボランティア活動などが考えられます。

4. 地域社会への貢献活動の拡大

地域社会への貢献活動を拡大することで、ライオンズクラブの存在感を高めることができます。例えば、地域の清掃活動や、災害時の支援活動、福祉施設でのボランティア活動など、地域社会に貢献する活動を積極的に展開することで、地域の人々からの信頼を得ることができます。

5. コラボレーション

ライオンズクラブは、他の団体や企業とのコラボレーションを通じて、新たな会員を獲得することができます。例えば、他のボランティア団体や地元の企業との協力関係を築き、共同でイベントを開催することで、多くの人々にアプローチすることができます。

以上が、会員増強方法の提案です。ライオンズクラブは、これらの方法を活用することで、会員数の減少に歯止めをかけることができるかもしれません。

ChatGPTが提案する 「オンラインボランティア活動」とは

会話を続けることで未知の答えを出すこともできる AI の実力

インタビュー : 3 番目にオンラインボランティア活動という聞きなれない活動を提案してくれました。これは具体的にはどのようなことを指しているのでしょうか。

ChatGPT : オンラインボランティア活動とは、インターネットを通じて行われるボランティア活動のことです。オンラインボランティアは、地理的制約を受けずに活動することができるため、自分の都合に合わせて柔軟な時間管理ができます。具体的には、以下のような活動があります。

1. 翻訳ボランティア

インターネット上で、海外の団体や NPO からの翻訳の依頼に応じ、翻訳作業を行うボランティア活動です。

2. オンライン勉強支援

オンラインで生徒とコミュニケーションをとり、勉強のサポートを行うボランティア活動です。

3. オンラインカウンセリンク

オンライン上で、相談者とコミュニケーションをとり、カウンセリングを行うボランティア活動です。

4. オンラインの署名活動

オンライン上で、特定のテーマに関する署名を募集するボランティア活動です。

5. SNS 運営支援

団体や NPO の SNS アカウントの運営や、情報発信を支援するボランティア活動です。オンラインボランティア活動は、オンライン上で行うため、対面での活動と比較して、自分の都合に合わせて活動することができるため、忙しい人や地理的制約のある人でもボランティア活動に参加しやすいというメリットがあります。しかし、オンライン上での活動には、セキュリティの問題やコミュニケーションの問題があるため、注意が必要です。

インタビュー : 分かりやすい解説ありがとうございます。



ChatGPTに聞く 330-A地区の会員増強について[応用編]

更に質問を工夫し、様々なアイデア出しを行わせた例

I インタビュアー : 会員増強政策について、せっかくなので、もう少しエッジの効いたドラスティックな(劇的な効果がある)政策をいくつか考えて頂けますか。

ChatGPT : はい、以下は、会員数を増やすためのエッジの効いたドラスティックな政策です。

1. インフルエンサーとのコラボレーション

人気のインフルエンサーやタレントとコラボレーションし、彼らをイベントやプロジェクトに参加させることで、クラブの知名度を上げる。

2. ゲーミフィケーション

会員募集や活動参加をゲーム感覚で楽しめるようにし、ポイント制度やバッジを導入して参加者のモチベーションを高める。

3. スタートアップ支援

若い世代に人気のあるスタートアップ企業と提携し、社会貢献やビジネスの成長をサポートするプログラムを開始する。

4. 学生向けプログラム

大学や専門学校の学生向けにインターンシップや奨学金制度を提供し、若い世代がクラブの活動に関心を持つきっかけを作る。

5. ファッションショー・音楽イベント

ライオンズクラブのチャリティーや社会貢献活動を組み込んだファッションショー・音楽イベントを開催し、イベントを通じて新しい会員を獲得する。

6. コワーキングスペース提供

クラブの施設をコワーキングスペースとして提供し、若い起業家やフリーランスを引き付け、会員数を増やす。

8. クラブと企業のパートナーシップ

企業と提携し、社会貢献活動を共同で行うことで、企業の従業員を会員に誘導する。

9. メンターシッププログラム

会員が若い世代にメンターとなり、キャリアや社会貢献に関するアドバイスを提供するプログラムを実施。

※実際には 24 項目提案してくれましたが紙面の都合で編集しました。

これらの政策を組み合わせることで、330-A 地区の会員数を増加させることができるでしょう。また、状況に応じて戦略を柔軟に変更し、効果的な会員獲得を目指しましょう。


I インタビュアー : ありがとうございます。素晴らしい提案ですね。

ChatGPT : ありがとうございます！お役に立てて光栄です。もしご質問やサポートが必要な場合は、お気軽にお問い合わせください。どんな質問でも喜んでお手伝いします。

ChatGPTの 330-A地区の政策について

花の 330-A 地区復活のために AI は何を提案するのか

I インタビュアー : 次に 330-A 地区を活性化し、花の 330-A 地区を復活させるために、どのような政策が考えられますか。いくつか提案してください。

 **ChatGPT :** はい、330-A 地区を活性化するための政策をいくつか提案します。

1. メンバーシップの拡大と多様性の促進

若い世代や女性、異業種の人々を積極的にライオンズクラブに招き入れ、メンバーの多様性を高めることで新しい活力をもたらします。また、企業や学生団体との連携を強化し、地域社会に密着した活動を展開します。

2. PR 戦略の強化

SNS やウェブサイトを活用して、東京地区の活動を積極的に発信し、地域社会への関心を高めます。また、メディアやインフルエンサーと協力し、イベントやプロジェクトの露出を増やすことで、ライオンズクラブの知名度と魅力をアピールします。

3. 社会貢献活動の強化とイノベーション

環境保全、教育支援、福祉向上など、多様な分野での社会貢献活動を充実させます。また、テクノロジーやデザイン思考を活用し、革新的なプロジェクトを立ち上げ、華やかさだけでなく、社会的なインパクトを生み出す活動を推進します。

4. 地域との連携強化

地元自治体や企業、NPO・NGO と連携し、協働プロジェクトを実施することで、東京地区の活動が広く認知されるようにします。また、地域のイベントや祭典に参加し、地域住民との交流を深めることで、地元根差した活動を実現します。

5. 寄付活動の見直しと透明性の向上

寄付金の使途や効果を明確にし、透明性を高めることで、寄付者からの信頼を獲得します。また、寄付活動のターゲットを見直し、より効果的でインパクトのあるプロジェクトに資金を投入することで、東京地区の存在感を高めます。

これらの改革を通じて、330-A 地区は再び日本一の華やかな地区として輝くことができるでしょう。

[コラム] ChatGPT を実戦で活用するために

ここまで見てきたように ChatGPT は抽象的な質問には抽象的に、具体的な質問には具体的に回答します。そのため、検索エンジンで検索するような質問の仕方では実際には精度の高い回答は期待できません。

ChatGPT を活用するためには入力情報を増やします。また、質問を繰り返すことで精度をあげるのも有効です。なお、英語に比べると日本語は苦手なので、英語で問答して日本語に直すという方法もあります。

また、ChatGPT と連携できるアプリケーションが日々増えています。Google Chrome の拡張機能や API など他のアプリケーションと連携した活用方法にも注目です。

ChatGPTが提案する AIなどの新たな技術の活用方法は

AIの活用は330-A地区復活のカギになる可能性も

I インタビュアー: 今後、330-A地区はAIなどの新たな技術をどのように活用すべきでしょうか。

ChatGPT: はい、以下のような具体的な活用方法が考えられます。

1. AIを活用した情報収集と分析

AI技術を活用して、地域のニーズや問題点を効率的に把握し、それに基づいた活動計画を立案します。また、過去の活動データや寄付金の使途を分析し、今後の活動の改善点を見つけ出すことができます。

2. ソーシャルメディア戦略の最適化

AIを用いて、適切なターゲットや投稿タイミングを分析し、SNSの効果的な運用を実現します。これにより、330-A地区の活動やイベントの認知度向上が期待できます。

3. VRやARを活用した活動の拡大

VR(仮想現実)やAR(拡張現実)を活用し、リアルには難しい活動の拡大を目指します。具体的には、被災地での支援活動や、病院での慰問活動など、現地に行かずとも体験できるような活動を展開します。また、VRやARを活用した募金活動の企画や展開も行い、新たな寄付者の獲得を目指します。

4. AIを活用した効率的な運営

AIを用いたプロジェクト管理や会員情報管理を行うことで、運営の効率化とスムーズな情報共有が実現します。これにより、メンバーがより多くの時間を活動に費やすことができます。また、AIは災害時の情報収集や支援物資の最適化配分、高齢者の健康管理などにも活用できます。

5. IoTを活用した活動の効率化

IoTを活用し、各種活動の効率化を図ります。具体的には、募金箱のセンサーを活用し、募金の状況をリアルタイムで把握することができるようにします。また、スマートフォンアプリと連携することで、会員の出欠管理や会場の予約管理なども自動化することができます。

[募金センサーの実行手順は?] ChatGPT: 自動化された募金管理の実行手順は、以下のようになります。

1. 募金箱にセンサーを取り付ける: 募金箱内の募金状況をリアルタイムで把握できるようにします。
2. センサーデータを収集: 募金状況を検知し、その情報をデータとして収集します。
3. データの解析: 収集されたデータをAIによって解析し、募金箱内の募金状況や募金金額などを把握します。
4. 募金管理システムへの反映: 募金の履歴や利用目的などの情報を自動で管理します。報告書の自動作成や、募金活動の進捗状況の把握にも活用します。
5. 募金活動の可視化: 募金活動の進捗状況や募金金額などをリアルタイムで可視化することができます。これにより、募金活動の成果や進捗状況を会員や支援者に伝えることができ、募金意欲の向上につなげることが可能です。

以上が、自動化された募金管理の実行手順になります。センサーの取り付けやシステムの導入などには、コストや設備面での課題もあるかもしれませんが、一度システムが構築されると、募金管理の効率化に大きく貢献することができます。

I インタビュアー: 本日はありがとうございました。

ChatGPT: こちらこそありがとうございました。また、いつでもご相談くださいね。

ChatGPTインタビューを終えて 私たちはAIとどのように向き合うべきか

我らが PR 広報委員会の新メンバー ChatGPT の仕事ぶりは如何でしたでしょうか。

世界中に存在する気が遠くなるほどの膨大なデータの中から、「ライオンズクラブ」についての情報を読み込み、そのミッションや活動内容を踏まえて短時間で模範的な回答を行う能力には驚きを禁じ得ません。

もっとも、AI といえども、利用者の質問や要求に対して、はじめからパーフェクトな反応ができるわけではありません。AI 自身が、日進月歩、いや時進日歩、秒進分歩、ともいべきスピードで学習した結果、大多数の人間にとって極めて合理的な回答が導き出されるものと思われれます。

一方で、人間の行動は不合理や理不尽に満ちています。一つの物事に対する人間の考え方は千差万別であり、さらに一人の人間にあっても、時代や状況により考え方は変わっていきます。人情の機微、本音と建前、駆け引き等はすべてデータ化されているわけではなく、現実はずしりも割り切れるものではありません。

また、AI がもたらす優等生的な回答は、多くの場合、安心できる「正解」かもしれませんが、必要以上に「正解」を信頼し、他を排除することは、画一的な価値観を生み出します。すでにネット社会においては、多様性を排除し、他者に不寛容なやりとりが日々生じていますが、こうした傾向に拍車がかかることも懸念されます。

古来より、突拍子もない、異端な発想のもとで、しばしば素晴らしい発明や芸術が生み出されてきました。社会における多様性は、進化や成長の源として不可欠といえるでしょう。

今後、AI が更に高度な学習を経て「シンギュラリティ (= 技術的特異点)」に到達したとき、AI と人間はどのような関係を構築しているのでしょうか。人間の持つ不合理性を理解し、少数者の価値観にも寛容な AI が生まれているのでしょうか。それとも「過去の間」が有していた人間臭さを捨て去り、AI と変わらない価値観を持つ人間が主流となっているのでしょうか。

その答えが出るまで、まだ少し残された時間はありそうです。

AI を活用しつつも、行動を起こし、臨機応変に対応できるのは、やはり人間ならではの能力です。当面、AI に過度に支配されることなく、また過度に敵対することなく、いい形で共存していきたいものです。

※当特集記事は委員会メンバーが投げかけた質問に対して ChatGPT が回答したものに補足などを行い読みやすいように編集したものです。

今号は ChatGPT(GPT-3.5 及び GPT-4) がその大部分を記述し、校正しています。

クラブアクティビティ報告



最新のアクティビティ報告はこちらをご覧ください。→<https://330a.jp/posts>

第 73 回八王子駅伝参加報告 東京八王子いちよう LC

2月12日(日)第73回全関東八王子夢街道駅伝競走大会に東京八王子いちよう LC が参加しました。3年ぶりに開催された同駅伝大会には413チームがエントリーし、駅前では毎日新聞の号外が配られ、大変な盛況ぶりでした。同クラブからは2チーム8名が参加しライオンのぬいぐるみを付けて快晴の空の下を快走しました。沿道に集まったクラブ内外のメンバーは、選手たちに声援を送った後、沿道のゴミ拾いを行い、最後は懇親会で選手たちを労いました。



コラム：テールツイスターってなに

クラブ役員の一人、テール・ツイスターは例会やその他の会合を盛り上げ、会員間の親睦を図るのが任務です。会員にファインを課す権限もっており、語源は「尻尾をひねる者」と言われています。

1997年発行のテール・ツイスター読本には、テール・ツイスターの5箇条というものが掲載されています。要約すると以下の通りです。

1. 旺盛な独創力とユーモラスな才知を持ち、会合を楽しく進行させる。
2. 小道具（赤い帽子、赤いタスキ、小太鼓、ラッパ、ファイン・ボックスなど）を準備し、任務を果たす。
3. 話術を駆使し、にこやかな雰囲気ファインを徴収する。
4. 会員の気持ちを尊重し、理解と協力を得る努力をする。
5. ファインとドネーションを明確に区別する。

そして、ライオンの尻尾をひねるように、例会の中で眠気を覚ます楽しい時間、それがテール・ツイスターの出番である**テール・ツイスタータイム**なのです。

今回は、**東京柳橋 LC** のテール・ツイスタータイムの取組みをご紹介します。

- ①楽しい会食も落ち着いてきた頃に**突如激しい BGM**と共にテール・ツイスタータイムが始まります。
- ②若手の司会進行のもとで**様々なゲーム**が行われます。（輪投、ダーツ、ボーリング、ビンゴ、サイコロ、BINGO、パターゴルフ、ポッチャ... など）
- ③毎回違うゲームで、メンバーで**点数を競い合**います。
- ④ランキング上位者には景品があり、**全員に参加賞**がプレゼントされます。
- ⑤盛り上がった後は**ドネーションタイム**となり、テール・ツイスタータイムが終了。

素晴らしいテール・ツイスターの取組みが例会を盛り上げるのは間違いなさそうです。各クラブでもぜひ参考にしてみてください。



キャビネット・委員会報告

■ 献血・骨髄移植・アイバンクセミナー開催 2/6(月)

GST 献血・骨髄移植委員会 献眼・献腎委員会

2月6日(月)東京都赤十字血液センターにて、GST 献血・骨髄移植委員会と献眼・献腎委員会共催による「献血・骨髄移植・アイバンクセミナー」が開催されました。

参加者は90名を超え、330複合地区の献血・骨髄移植委員会と献眼・献腎委員会からも多数、お越しいただきました。

増田正明ガバナーの挨拶の後、来賓を代表して元地区ガバナー・名誉顧問、公益財団法人日本アイバンク協会常務理事のL塩月藤太郎が挨拶を行いました。

その後、講演会が開始され日本赤十字社東京都赤十字血液センターの牧野茂義所長の挨拶の後、事業推進 一部長の田中真人様が「コロナ禍における献血の状況について」講演を行いました。続いて日本骨髄バンクの渡辺良輝広報渉外部長代理から「骨髄バンクの現状と課題」の講演に続き、ライオンズクラブへのお礼とお願いが行われました。

第一部の締めくくりとして、ドナーファミリーの半谷駒子様(故L半谷英二の奥様)とL田中良子(東京ウィルLC)から献眼を行った経緯や家族の思いが述べられ、会場は感動に包まれました。お二人にはGST 献眼・献腎委員会アドバイザーのL戸田一郎とL橋本光祥から感謝の花束が贈られました。

第二部は公益財団法人日本アイバンク協会の西田輝夫常務理事から「日本アイバンク協会認定サポーター講習会」が行われ、まとめとして一般社団法人日本ライオンズ理事長で、公益財団法人日本アイバンク協会理事の村木秀之ライオンから、「今日学んだことはクラブや知人で共有してほしい」とご挨拶がありました。

最後に、GSTの社会福祉・障がい者支援委員会の小山俊一委員長から「こころのバリアフリーハンドブック」の紹介と、青少年健全育成委員会の佐藤泰治委員長から「ツリークライミング」の案内があり、終了となりました。

閉会后、「アイバンク協会認定サポーター」の講習会受講証と認定証が渡され、2時間30分のセミナーが終了しました。

今後、クラブや地区のアクティビティに活かしていただければ幸いです。

GST 献血・骨髄移植委員会 委員長 大久保英彦
GST 献眼・献腎委員会 委員長 椿佳生子



キャビネット・委員会報告

■ Zoom による専門家セミナー

今期、増田ガバナーの要請を請け、GLT 指導力育成委員会専門家が開催している全 9 回の Zoom による専門家セミナーの第 8 回 (2/18) と第 9 回 (3/25) が開催されました。当セミナーは毎回 50 名~80 名 近く参加している大人気のコンテンツに発展しており、効果測定も行われ、退会防止やライオンズ活動の活性化に目に見える成果を残しています。

第 8 回 「弁護士からみた反社・クレーム対策」 参加レポート

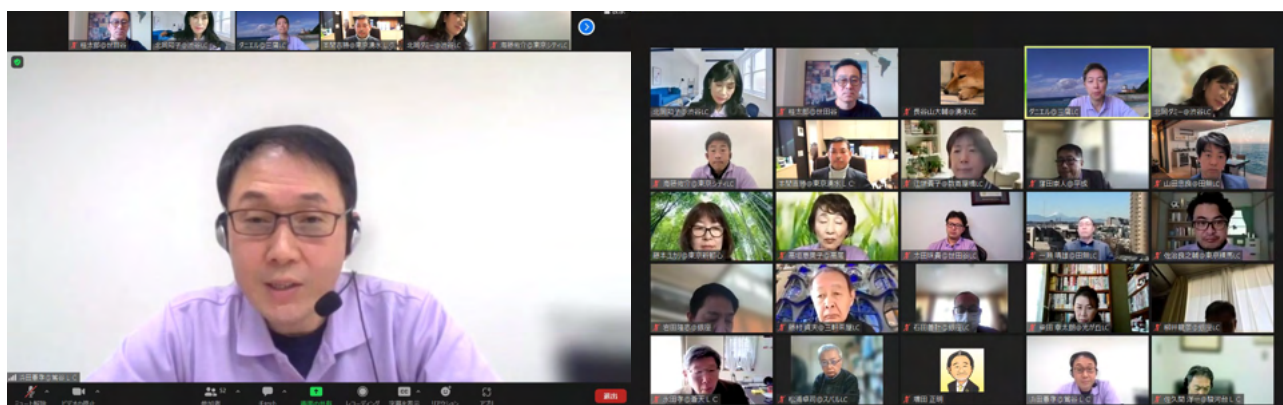
2月18日(土)第8回専門家セミナーに参加し、反社会的勢力の定義、チェック方法、正当なクレームと不当要求の線引きや対策について学びました。講師は弁護士の L 濱田憲孝 (鶯谷 LC) です。

まず、反社会的勢力(以下、反社)とは何かについて学びました。反社には暴力団や総会屋だけでなくエセ同和、エセ右翼なども含まれ、ネット検索や警察、調査会社などを活用してチェックします。

クレーム対応では、正統な要求と不当なクレームの見分け方やクレーム対応の基本的な流れを解説して頂きました。見分け方の基本は行為態様に着目して判断すること、対応については、対面する場合は 2 人以上で対応することが望ましいなど具体的にアドバイス頂きました。個人が巻き込まれやすいトラブルとして特殊詐欺やぼったくりなどが挙げられ、企業・事業者にもリスクがあることが示されました。その対策としては、内部体制の構築、非常時の対応、外部機関(警察、弁護士等)との連携が重要であることが強調されました。

このセミナーを通じて、反社会的勢力やクレーム対策に関する知識を深めることができました。日常生活や仕事において、この知識を活かして危機管理に取り組み、自分自身や周囲の人々を守るための対策を講じることが大切だと感じました。また、周りの人にもこのような情報を共有し、社会全体で反社会的勢力への対策を進めることが重要です。

今回のセミナーは、私たちが普段あまり目にする事のない反社会的勢力という問題について、より具体的かつ実践的な対策を学ぶことができる非常に有益な機会でした。



全コースタイトル

- 第 1 回 8月21日(日) スピーチテクニックを学ぶ「スピーチちょこっと頑張ってみませんか」 L 江端貴子 (数寄屋橋 LC)
- 第 2 回 9月3日(土) スマホで簡単 YouTube 動画編集・配信「これであなたも Youtuber」 L 林秀行 (三鷹 LC)
- 第 3 回 10月2日(日) “コロナ禍の海外旅行・事前準備とお国事情” L 嶋田誠幸 (赤坂 LC)
- 第 4 回 10月30日(日) ワインが 10 倍美味しくなる「世界ワイン事情」 L 小倉豊 (ウェスト LC)
- 第 5 回 11月13日(日) 「花から学ぶビジネス・センス~花は数学です~」 L 石川味季 (荏原 LC)
- 第 6 回 12月3日(土) 「50代からそなえる相続対策」 L 岩田隆志 (銀座 LC)
- 第 7 回 1月28日(土) 「ハラスメントゼロの職場環境づくり」 L 高橋雅人 (田無 LC)
- 第 8 回 2月18日(土) 「弁護士からみた反社・クレーム対策」 L 濱田憲孝 (鶯谷 LC)
- 第 9 回 3月25日(土) 「江戸小唄に学ぶ江戸の人情文化」 L 松本晋平 : 五代目三遊亭金馬師匠 (赤坂 LC)

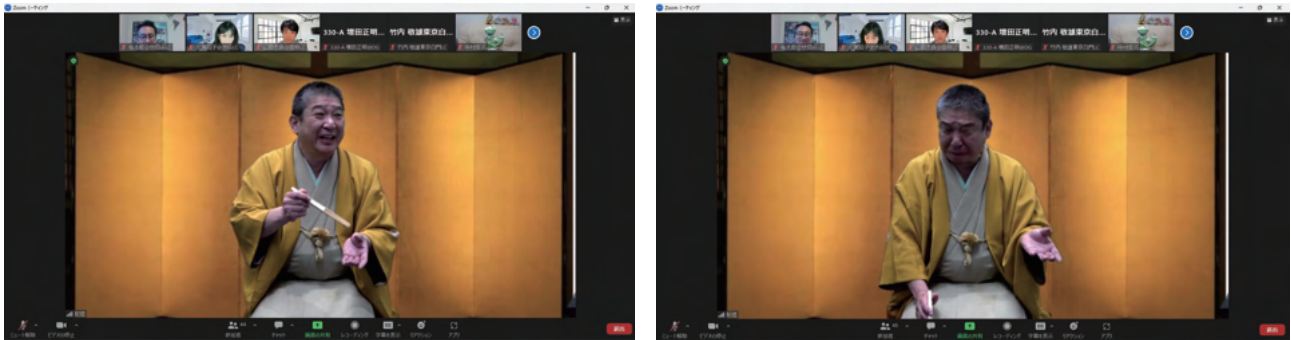
キャビネット・委員会報告

■ Zoom による専門家セミナー

第 9 回 「江戸小噺に学ぶ江戸の人情文化」 参加レポート

3 月 25 日 (土) 五代目三遊亭金馬師匠 (赤坂 LC) によるセミナーに参加しました。

前半は、『時そば』という演目をお話頂きました。そばの勘定を巡るごまかしを目撃した男が、それにひどく感心して、自分も真似して同じことをしようという滑稽な話で、参加者もとても楽しんで拝見しました。



後半は、金馬師匠から江戸の文化についてお話頂きました。江戸時代はグルメの街で、お寿司やかば焼きなど、今とは少し異なる食文化が栄えていました。お寿司のシャリはおにぎりぐらいの大きさだったそうです。また、江戸は当時 1000 万人の都市であり、完全な循環型社会が築かれていました。排泄物は肥料として利用され、火事の灰も埋め立てに使われました。このような生活の知恵が江戸を綺麗な街にしていました。

当時の日本人の識字率は 70% 以上と高く、奉公や寺子屋などの教育システムが整っていました。

有名な吉原遊郭には花魁 (おいらん) を頂点とする「格」があり、「けころ」や「よたか」など様々な「格」が存在しました。有名な花魁は大名などとも親しく様々な伝説が残っています。

江戸時代には火事が頻発し、火消しという職業が存在していました。大名火消しや町火消、常火消しなど、さまざまな火消しの種類がありました。火消しの仕事は風下の家屋を壊すことでした。

また、寄席や老入りという文化もあり、多くの人が楽しみを持って生活していました。老入りは、家督を譲った後に好きなことを楽しむという文化で、現代の「老後」とは異なる考え方があったそうです。

江戸時代の人情文化を学ぶことで、当時の生活や価値観を理解することができました。また、今でも通用する知恵や文化も多く、江戸時代の人々の知恵や心意気を学ぶことができました。



編集後記

三代編集長: この二カ月、ChatGPT などの AI を活用したサービスで、効率化・精度向上など「仕事に活用できそうな要検証リスト」に個人的にストックして「積読」状態となった物を数えたところ、11 本もの技術が短期間でリリースされていました。人工知能の発展(開発)スピードには圧倒されるばかりです。その一方で、年内目にしたニュースで、地震大国であるトルコに「建築恩赦」なるものが存在したこと、日本でワクチン 1 回の購入単価が主権者に明かさずともまかり通ってしまう「契約」という不思議な魔法が存在していたことには度肝を抜かれました。

50 年、100 年前からの進歩すら懐疑的で、人類の未熟さや弱さを再確認しました。

義理・人情など、非合理であっても人間臭い感情は残って欲しいものの、「適材適所」で替わるべきところは人工知能などに交替した方がより進歩のスピードも人類が思い描く世界も実現しやすいのでは? と ChatGPT を通じて感じます。

桂共同編集長: 人工知能特集の企画が始まったのは、2023 年 2 月中旬でした。その後わずか 2 ヶ月の間に、ChatGPT は驚異的なスピードで世間に浸透しました。当初予定していた特集タイトル「人工知能の衝撃」が時代遅れと感じられるほど、AI 技術は急速に一般化しました。今回の特集記事の全ページを ChatGPT が生成し、人間と対話会話するかのような自然言語処理能力を発揮しているという事実が全てを物語っています。

AI が仕事を肩代わりしてくれた後の世界で、人生の醍醐味を提供することがライオンズクラブの新しいアクティビティになる日がくるのかもしれませんが。

2022-23 PR チーム

L 坪谷 茂 PR コーディネーター 東京平成 LC
L 阿部 清彦 PR 副コーディネーター 東京新宿 LC
L 坂本 純一 PR 副コーディネーター 東京三鷹 LC

・PR 広報委員会

L 桂 太郎 委員長 東京世田谷 LC
L 茂岡 幹弥 副委員長 東京白門 LC
L 三代 勝之 副委員長 東京スバル LC
L 堀江 昇太 委員 東京柳橋 LC
L 小倉 左羅 委員 東京ウィル LC
L 小泉 邦明 委員 東京飯田橋 LC
L 石川 ナオミ 委員 東京さざさう LC
L 鈴木 郁朗 委員 東京新宿 LC
L 荒牧 知子 アドバイザー 東京 LC
L 佐藤 聖士 アドバイザー 東京尾張町 LC
L 向井 忠義 アドバイザー 東京小金井 LC
L 新井 大介 オブザーバー 東京新宿 LC

・PR メディア制作委員会

L 吉岡 晋 委員長 東京けやき LC
L 河田 淳一 副委員長 東京平成 LC
L 藤田 紘子 副委員長 東京ヒルズ LC
L 赤尾 嘉晃 副委員長 東京豊新 LC
L 吉田 拓矢 委員 東京蒼天 LC
L 海沼 潤 委員 東京柳橋 LC

・PR SNS 対策委員会

L 小野 健志 委員長 東京ピース LC
L 大和田 博道 副委員長 東京葵 LC 魁支部
L 石橋 卓磨 副委員長 東京稲門 LC
L 石田 賢 副委員長 東京三鷹 LC
L 山本 元気 委員 東京調布 LC
L 坪坂 有純 アドバイザー 東京新宿 LC



電子版

ライオンズ国際協会 330-A 地区 ライオンズニュース VOL4 発行人: PR 広報委員会委員長 L 桂 太郎

発行: 2023年04月 20230422 Copyright 2022-23 330-A Lions Clubs International All Rights Reserved.